

【書く・なぞる】俳句 与謝蕪村 一

春の海 ひねもすのたり のたりかな

菜の花や 月は東に 日は西に

五月雨や 大河を前に 家二軒

夕立や 草葉をつかむ 風の音

春雨や 隣の人も 旅人と

【書く・なぞる】俳句 与謝蕪村 二

初しぐれ 猿も小蓑を ほしげなり

夜の秋 桔梗に月を 吸はせけり

牡丹散り てふ蝶もおはず ひる昼閑か

行く春や 鳥啼き魚の 目は泪

春の夜や 桜に涼む 上臆かな

【書く・なぞる】俳句 与謝蕪村 三

馬に草 春かせて見る 枯尾花

木枯や 竹斎の肘 折れんばかり

夏河を 越すうれしさよ 手に草履

雪の朝 二の字二の字の 下駄の跡

古郷や 白の音して 夜半の冬

【書く・なぞる】俳句 与謝蕪村 四

荒海や 佐渡によこたふ 天の川

冬牡丹 老僧の眉 うごきけり

春風や 堤長うして 家遠し

目にかかる 時や椿の 垣根哉

霜の朝 開けたる鶴の 瘦やせ姿